

# ペシャワール会報

No.52

ペシャワール会 〒810 福岡市中央区大名  
一丁目一〇一三五 上村第二ビル三〇七号  
電話・FAX 〇九二(七三二)二三七二



## 1996年度を振り返って

- 慰めと希望を共に分かち事業を..... 中村 哲
- '96年度会計報告..... ペシャワール会事務局
- 現地事業の継続と互いの協力を確認..... 村上 優
- 実を結びつつある果実..... 藤井卓郎
- PLS スタッフ紹介 (その1) ..... 永田高志

太鼓叩きの帰郷 \*表紙絵 甲斐大策

ペシャワール会は1983年9月、中村医師のパキスタンでの医療活動を支援する目的で結成されました。彼の活動を支援するとともに、アジアの人々についての理解を深めていきたいと願っています。

### ペシャワール会 インターネット

ホームページ <http://www1.meshnet.or.jp/~peshawar/>  
電子メール [peshawar@mx.meshnet.or.jp](mailto:peshawar@mx.meshnet.or.jp)

# 慰めと希望を共に分かち事業を

## 新病院は来春開院式

人々を慰めるのは、決して事業規模の大きさや巧みな議論ではない。……十五年を経て問題の核心に触れた現地活動は、今後も変わらず日本の良心をいかんなく発揮するだろう。そして偏狭な人間の思いや、民族や国家や宗教の壁を超え、人間と人間とを繋ぐ絆であり続けるだろう。

JAMS (日本-アフガン医療サービス) 顧問医師  
PLS (ペシャワール・レプロシー・サービス) 院長

中村 哲

### 1996年度を振り返って

一九九七年度を以てペシャワール会の活動は十五年目に入る。十五年という年月は長いようで短い。今や最大の課題は次の三十年間の活動の準備となった。時期を合わせたように、アフガニスタン安定の兆しが現れ、かつらいコントロール計画の大混乱によって、事態は過去のどの時期よりも流動的となった。現地では不安と希望が交差している。

私たちの活動形態も、新情勢の中で大きな変化を余儀なくされている。しかし、その内容において、初心はいささかも変化なく貫かれている。連続崩壊以後、世界情勢激変の余波を直接こうむりながら、私たちは幾多の権威が音を立てて崩壊する光景を目の当たりにしてきた。一見、複雑怪奇な情勢にもかかわらず、過去の経験の語るところは明快である。虚構は一時は人を欺き得ても必ず滅び去り、真実は不動だという単純な歴史的鉄則である。

現実を見れば、本質的な事態は十五年前と殆ど何も変化していない。社会的な弱者は圧迫され、貧困層は更に貧困である。ハンセン病(らい)も減少する気配がない。不毛な民族主義と宗教主義が狂気と対立をあおり、傲岸な「民主化」と近代化が武器と金によって幅をきかせるという構図は変わらない。アフガニスタンの内戦はタリバン政権の出現で一つの結論を出した。二十年に及ぶ内乱、六百万の難民、二百万人の犠牲の意味はいっ



新病院の鉄入れ式を行う中村医師

たい何であったのか、廃墟から問わざるを得ない。私たちの対峙する問題は余りに圧倒的である。

この中で、私たちの活動にながしかの意味があったとすれば、戦乱と病で疲れた人々に慰めを与え、目まぐるしく出入りする外国団体をよそにひとつの希望を灯し続けて来たことである。それによって私たち自身も目を開かれ、心豊かになったと言える。

人々を慰めるのは、決して事業規模の大きさや巧みな議論ではない。これほど多くの海外救援団体が莫大な浪費の末、現地で失態を繰り返すのは、そこに大切な精神が欠落しているからである。十



新病院の建設工事風景

五年を経て問題の核心に触れた現地活動は、今後も変わらず日本の良心をいかなく発揮するだろう。そして偏狭な人間の思いや、民族や国家や宗教の壁を超え、人間と人間とを繋ぐ絆であり続けるだろう。

誰でもいつか世界から去る日がくる。その時、現地事業の軌跡が人々を励まし、少しでも慰めと希望を分かつことに与かつたとすれば、それに優るものはないと信じている。

一九九七年度も力を尽くして共に問題に取り組んで行きたい。

## 現地の一般情勢

私たちの事業も、これを取り巻く現地情勢も、例年以上に激しい変化の一年となった。政治的にはタリバン勢力によるアフガニスタン統一が進められて、カブール中産階級のペシャワール避難が大量に発生した。パキスタンではベナジール・ブットーの人民党に代わってナワーズ政権が登場、大幅な政治経済改革が行われた。

らいコントロール計画も、各関連団体の活動停滞で大混乱に陥った。アフガニスタン国内の援助団体は、タリバンのカブール占領によって一時的に全て姿を消した。一方、日本側の補給は円安で苦しい状態が続いているが、活動そのものは組織再編を経て新たな展開となり、「ペシャワール会」の存在はいよいよ重要性を増している。

### ●パキスタン北西辺境州・アフガニスタン情勢

#### 「タリバン（神学生）勢力」の支配

一九七八年以来長く内戦の続くアフガニスタンでは、「統一」の兆しが見え始めている。イスラム復古主義の新勢力、タリバン（神学生）が、わずか二年で全土の三分の二を支配下に収め、九月には首都カブールを占領して旧勢力を一掃した。旧政権さえ躊躇していたナジブラ元大統領（旧共産主義政権）の処刑を断行、三日間市中に吊るして厳しいイスラム法による統治方針を徹底、全世

界を震撼させた。イランでさえ、「行き過ぎ」を避難したが、治安の回復は、戦乱に疲れた一般大衆に安堵をもたらし、タリバンは概ね各地で歓迎された。

国連を含む各国NGOは一斉にカブールを退避、私たちJAMS（日本・アフガン医療サージャ）を除いて、一時全アフガニスタンから救援団体が消えた。食糧難と冬の到来でカブールは一時危機的な状態に陥った。この間、ペシャワールJAMS病院は事実上唯一活動する医療救援団体として、カブールからの避難民十万人の大きな拠り所となった。

カブールを追われたラバニ・マストド派や、北部のドスタム派は抵抗を続けていた。タリバンの主力が多数派のパシュトゥン民族で、抵抗するのは何れもペルシャ語を話す比較的少数派の民族である。その対立の根は深く、事態が「第二のユーゴスラビア」に発展することを憂慮する向きもあった。それでも、一九九七年五月中旬、北部への要衝を抑えたタリバンは、内紛に乗じ、五月二四日一挙にドスタム将軍派の拠点マザリシヤリフを陥落させた。しかし六月三日にはドスタム派のマリク将軍の反撃を受け敗走。マストド派がこれに呼応してカブール北部で激しい戦闘が散発している。タリバン政権による統一が進むものと観測されたが、予断を許さない。カブール市民の置かれた生活はなお劣悪で、殊に知識層はペシャワールなど、国外で待機せざるを得ない状態が続いている。アフガニスタン復興はまだ先の話である。

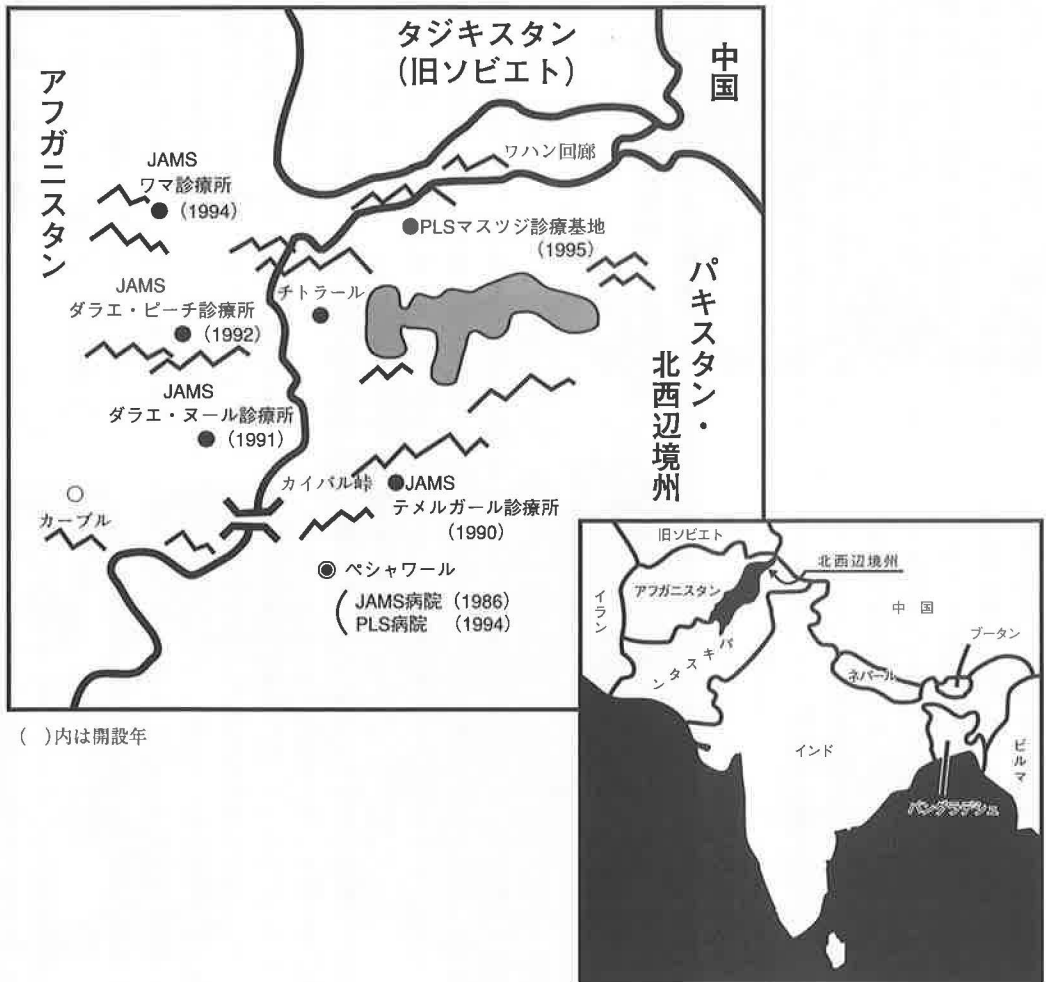
パキスタンの混乱と現地組織再編

パキスタンではブットーの率いるPPP(パキスタン人民党)が汚職と腐敗で支持を失い、ブットーの弟は暗殺された。また、莫大な負債を抱える国家財政が破綻、IMFも借款を拒否、政権は危機に瀕し、一九九六年十月に解散、一九九七年一月の総選挙でPML(パキスタン・イスラム連盟)のナワーズ新政権が誕生した。新政権は宿敵インドと宥和政策を進め、経済立て直しを図り、国家全体としてはこれまでにない安定が一時的に見られている。アフガニスタンの安定は、パキスタン国家存立にとっても必須条件であり、「タリバン」政権との友好的関係が維持されている。

しかし、パンジヤブ州優位に対する北西辺境州の警戒心は依然として根強い。九七年三月に発生した食糧暴動は北西辺境州全土を覆い、一時は深刻な事態となった。新政権はペシャワールでも大幅な人事更迭を断行、新病院建築を始め、私たちのPLS(ペシャワールらいサービス)にも少なからぬ影響が出た。さらに、「難民送還」を国策として打ち出す兆しがあるため、連邦政府登録の難民救援団体であるJAMSの合法活動が危ぶまれた。そこで、ペシャワール会自らを「日本の国際団体」として登録、「Peshawar kai(JAPAN Relief Services)(PRS)」が苦心の末誕生、JAMS—アフガニスタン側、PLS—パキスタン側を活動体として直接傘下に収め、長期活動の安泰を図った。

昨年以來の円の急落はペシャワール会からの補給に深刻な影響を与えたが、現地活動は少しも鈍

● PLS・JAMS病院・診療所地図



っていない。

## パキスタン北西辺境州・ らい根絶計画への協力

一九九五年十二月に発足したPLS（ペシャワール・レプロシー・サービス）は、予定通り恒久的な基地病院建設を始めた。しかし、それまで主力であったドイツの団体、マリー・アデレイド・レプロシー・センター（カラチ）の「コントロール達成宣言」は深刻な影響を与えた。功を焦ったあげくの、事実上の撤退である。ハンセン病は



PLSに入院中の子どもたち

医療行政の関心から遠ざかった。ペシャワール・ミッション病院らしい病棟も、九七年三月に院長が死亡した後、病院の存続そのものが危ぶまれている。相前後して公営病院が民営化され、不採算部門である「ハンセン病科」は真つ先に切り捨てられた。

「ペシャワール会誘致」を巡って随所で各団体の暗躍・妨害があり、計画は難航した。しかし、残された六千名の患者ケアの場を確保し、増え続ける新患者や再発者に対処しなければならぬ。それが出来るのはペシャワール会以外になくなったということである。

### 新病院建設

一九九七年一月下旬、州政府から与えられた予定地に建築が始まった。しかし、各勢力の妨害工作、協力的な政府関係者の更迭、付近施設の反対運動などで初期工事を停止して一時静観した。まともにはハンセン病患者のケアができるのは今や我々以外にない。今後不毛な政争に巻き込まれず、数十年の安定したサービスを継続するには、慎重に事を運ばねばならなかった。新病院はその皆だからである。

各機関が争っている背景は、煎じ詰めれば金と力、名誉や競争心である。そのために組織存続のための組織となっている。政治権力として例外ではない。政権が変わるたびに戦々兢兢としていたのでは、仕事が進められない。我々にとって問題なのは患者たちの治療なのである。そこで、思い切った方針転換を行い、ペシャワール隣接農

村に移転を決定、住民たちのジルガ（長老会）の決定で「永久私有」を確認させ、農民たちも大歓迎した。これ以上に確実な保証は現地で考えられない。これには、PLS責任者のハンフリー氏と同地域出身スタッフたちの猛烈な働きによるところが甚だ大きかった。工事が本格化したのは一九九七年五月に入ってからであった。開院式は予定通り一九九八年四月十日となる。

新方針の第二は、「ハンセン病診療」をことさらに前面に打ち出すことなく、感染症と心身障害一般を取り扱う病院として機能させ、ハンセン病をその一部として診ることである。こうして各関連機関との摩擦を避け、背後から実際の患者ケアを確立し、ハンセン病に対する偏見を避け、らいコントロール計画に睨みをきかせることが出来よう。

### フィールドワーク（早期発見の努力）

一九九六年度は、北部でチトラールのマズッジ診療基地を完備、ワハン回廊をめざしてヤルクン川流域の診療態勢を固めた。東北部ではコーヒスタンに着手して調査を完了、第一回の本格的な偵察診療が一九九七年三月に実施された。殊にコーヒスタンは医療事情が悪く、受診してハンセン病と判明したものは七百名中十二名にもなった。その他、マラリア・赤痢・結核など他の重症感染症を含めると、その数はさらに膨大である。

すでに住民たちの信頼を充分得ているが、ハンセン病に対する偏見、とびきりの無医地区であること、「ハンセン病センター」をめぐる無用な政争が各機関の間にあることから、今後はアフガ



患者さんと談笑する中村医師

ニスタンと同様、一般診療を掲げてフィールドワークを継続する。コーヒスタンのドベール渓谷を皮切りに、広大な山岳地域に定期診療が行われる予定であるが、当面ペシャワールの基幹病院整備に集中し、建築だけでなく質量共に充実させ、協力態勢を明確に打ち出して各機関との調整を図らなければならない。フィールドワークが活発化するの是一九九七年度後半から一九九八年初めからと見てよい。

## JAMS・アフガニスタン 農村医療計画

十周年を経たJAMSもまた、大きな変化を被った。一九九六年九月のタリバン（神学生）政権の出現は各国NGOにパニック状態を招いたが、JAMSの診療活動は、タリバンによる治安の回復と共にかえって容易となり、何事もなく継続された。九六年五月にドラエ・ピーチ診療所を襲撃したグループは処刑され、九四年八月に二台の車両を強奪した者は逃走中である。ドラエ・ヌールヌーリスタン（ワマ）診療所近辺は、少数山岳民族の住む地域で、タリバンに反旗をひるがえし、こぜりあいでも双方に犠牲者が出た。しかし、診療所の存在は双方から歓迎され、診療活動に影響は出なかった。

しかし、カブール避難民の流入でJAMSのペシャワール病院が多忙となった。円安による補給の低下で診療数の伸びは、開設以来初めて頭打ちとなった。一九九七年二月に構造改革を迫られてペシャワール病院の規模を縮小、スタッフを一〇七名から八七名に削減、うち五名をパキスタン側のプロジェクト（PLS）に転出させた。診療活動が最も必要とされる時期、これは大きな痛みを伴ったが、チーム指導者のシャワリ医師がペシャワール会と命運を共にすることを誓って、果敢に断行された。

カブール避難民は確かに大きな問題であった。

しかし、JAMSの本領は山村無医地区にあり、本来の計画にしろよせがくることを避けたのである。財政的にゆとりがあれば、本来ならあの緊急時こそ、カブールに支援の手をさしのべるべきであった。その気になれば動ける組織もあったはずである。カブールやジャラバードなどに事務所を構えるNGO・国連機関は殆ど活動らしい活動もなく、微動だにしなかった。それどころか、パニック状態に陥ったあげく、「原理主義政権（タリバン）」を批判することのみに終始した。我々の苛立ちを付け加えておきたい。

### 一九九七年度の事業計画

アフガン情勢急変の場合に若干の修正はあっても、基本的に変更はない。次期三十年間への準備である。活動地域は現在でも宏大である。アフガニスタン北東部、北西辺境州（パキスタン）北部に限定する活動を継続する。

#### 1. 新病院の建築と診療態勢の充実

円安・政権交代など、やむを得ない事情で工期の遅れ、候補地の変更があったが、工事は現在、着々と進んでいる。今後三十年間、ペシャワール会現地活動の不動の砦となるものである。一九九八年一月までに基本部分を完成して移転、一九九八年四月十日に予定通り開院式を行う。

単に建築だけではない。これを以てペシャワール会の活動は新たな段階に入る。新病院は六千名のハンセン病患者の拠り所を提供し、多発地帯へ

のフィールドワーク（定期出張診療）の基地となる。建築と並行して、法的整備も、現地主要スタッフの猛烈な努力と、関係機関の好意で固められてきている。一九九七年度は、この充実が最優先課題である。

### 2. 移動診療班（フィールドワーク）の強化

パキスタン側とアフガニスタン側が協力、国境を挟む山岳地帯の診療圏の拡大を行う。診療所の開設は膨大な財政負担を強いられるので、基地診療病院の充実を図りながら、今後は移動診療班を充実、拠点基地を設けて定期診療方式にきりかえる。

一九九七年から二〇〇〇年までの間に以下の地域を目指している。

- (1) チトラール北部・ヤルクン川流域及びトルコ渓谷
- (2) コーヒスタン・主にインダス・コーヒスタンでモデル診療を確立
- (3) クナール北部（ヌーリスタン東部）・カムデシュ
- (4) バダクシヤン（とくにワハン回廊）・ヤルクン川経由でパミール南方部へ
- (5) パーミヤン・カブール北西部

### 3. カブール避難民診療

カブール安定まで、パキスタン側・アフガニスタン側一致協力して、出来る限りケアを行う。将来予測される「復興援助ラッシュ」には大きく関与しない。

### ●北西辺境州らいコントロール計画とのかかわりについて

ペシャワール会の基本姿勢は以前から不変、

① ペシャワール会が北西辺境州政府フィールドワーカー又はペシャワール・ミッシヨン病院らしい病棟の意のままに動く団体となって、後始末に協力することはしない。

② ペシャワール会は、建前として、あくまで一般感染症・心身障害診療の一部としてハンセン病診療を行い、主導権争いなどの不毛な政争に巻き込まれない。実質性を重視する。

従ってパキスタン側の施設名称を「ペシャワール会（ジャパン）メディカル・サービス」とし、ハンセン病をその重要な一分科とするが、活動内容は変更なし。これには、ハンセン病に対する偏見を一掃する意味も込められている。

③ パキスタン・アフガニスタンの協調を崩さず、安易な民族主義には与しない。アフガン人が主要メンバーであることは今後も変わらない。

### ▼未使用の切手・ハガキを！▲

\*会報の発送費に、年間百万円以上がかかっております。未使用の切手・書き損じのハガキ等お送りいただければ幸いです。

（古切手は扱っておりません）

表紙をめぐる小さな物語 15

### 太鼓叩きの帰郷

甲斐大策

アミル一家は、パーミヤン谷の蒙古系ハザラの族長に従う同族の小作人だったが、代々谷の人々に愛されてきたシルバガリ（陶器の小太鼓）の名手一家でもあった。族長がカブールに屋敷を構えると、父共々、雑役夫としてそこに住んだ。八〇年代初め、族長一家は、対ソ戦本部づくりを名目にカナダへ移住、屋敷の主は政権を反映して眼まぐるしく換る。しかしアミルは変わらず、家族と太鼓さえ無事なら、とだけ思っていた。

九四年冬のある日、ロケット弾が屋敷を直撃、父母と妻子は呆気なく逝った。命名直前でポプと呼んでいた一才未満の三男だけが残った。アミルは、焼け焦げた桑の樹に凭れ、横たえたポプと太鼓を撫でさすだけだった。

ポプの泣声が止まった朝アミルは、突然ポプを肩車にした。小さな両掌をルンギ（ターバン）に縛り、市の北西へ歩き始めた。

ポプから流れ出る尿や汚物で背が冷たく濡れるのをアミルは、自分の汗と信じた。火照っていた細い足首が午後には冷たくなり、それを風のせいだと信じた。三日目二人はハジガク峠を越え、パーミヤン谷の入り口近くにいた。

「直き、うんと暖かくしてやる……。」

絶壁の中腹から湯がしみ出し、セメントと小石で囲った露天の小浴槽が急斜面にはりついている。

硬く冷たいポプを肩から外し、アミルは、衣服の儘湯に入った。ポプの萎びた両手足は肩車の姿勢を保つて天に向き、湯の中で揺れる。

「お前、グウデイ（人形）になっただな……。」

正面には巨大な土柱が連なり、アミルの虚ろな頭は、それをミナール（尖塔）と眺めていた。

深々と湯に身を沈めたアミルに立ち上る気配はなかった。



\*前頁ペシャワール JAMS 「その他」の検査内訳

X線単純写・造影	5,466	肝機能など血清学的検査	2,432
腹部エコー	1,848	胃・食道内視鏡	1,534
心電図	1,833	病理組織診断	218
細菌検査	1,442	免疫学的検査	1,871
マラリア	3,474	その他	1,862

### ワーカー・ボランティア派遣事業

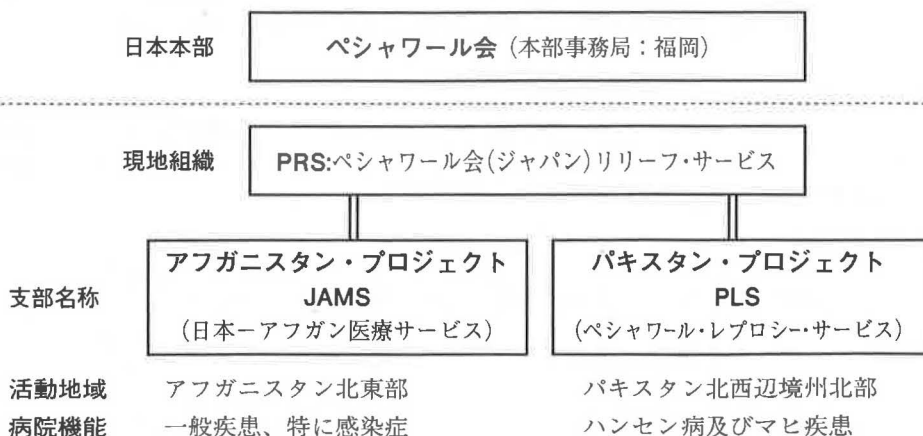
1996年度は以下の人々がペシャワール会を通して協力を行った。

氏名	職種	所属	協力期間
藤田千代子	看護婦	元福岡徳洲会病院	1990年9月-現在
倉松 由子	理学療法士	元多摩全生園	1992年10月-1996年7月
小幡 順子	看護婦	元久留米大学病院	1995年4月-1996年5月
松井 裕光	検査技師		1996年2月-1996年7月
蔵所麻理子	作業療法士	八尾徳洲会病院	1996年9月-1997年2月
小林 晃	医師	徳之島徳洲会病院	1997年2月-現在(5年予定)

96年度は研修者が多数赴いたが、会の財政・現地指導に十分なゆとりがなかった。今後は長期のかわりを前提として、事務関係のボランティアも考慮し、ゆとりを以て質良く準備していきたい。それでも、言葉の学習やビザの面では一昔のように著しい困難がなくなり、あとは現地のペースに合わせる根気の問題が主になってきたと言ってよい。

### ペシャワール会・JAMS・PLS

1997年5月現在、ペシャワール会の現地態勢は以下のとおり。



「Peshawar-Kai (Japan) Relief Services (PRS)」は、パキスタン連邦政府に登録された国際 NGO として合法活動が保証されている。パキスタン・アフガニスタンの各支部はいずれも、山村無医地区のモデル診療態勢確立、およびハンセン病など感染症の診療・予防活動を主軸とするが、特にハンセン病多発地帯での活動を重視する。PLS 病院では、ハンセン病だけでなく、他の感染症やマヒ性疾患も取り扱っている。

#### PLS (ペシャワール・レプロシー・サービス)

- 入院ベッド数 40床 (男性25・女性15)
- スタッフ 37名 (現地医師4名、らい診療員4、看護婦・看護師3、看護助手10、検査2、一般助手6、門衛2、ワークショップ3、料理人2、事務3)
- 年間入院治療 約600名
- 年間外来治療 約1万名 (らい関係のみ)

#### JAMS (日本-アフガン医療サービス)

- 入院ベッド数 25床
- スタッフ 87名 (現地医師16名、検査14、看護師・助手20、門衛8、運転手6、料理人3、事務3、薬局2、レントゲン3、その他3)
- 年間入院治療 約900名 (ペシャワール病院のみ)
- 年間外来治療 約15万名

#### 地方診療所及び診療基地

診療所名	所在地	カバーする地域人口	1月診療能力
<b>■アフガニスタン国内</b>			
JAMS ダラエ・ヌール	ニングラハル州北部	20万人以上	150名
JAMS ダラエ・ピーチ	クナール州-北西山岳部	10万人以上	100名
JAMS ワマ	西部ヌーリスタン	5万人以上	70名
(各診療所には、医師・検査技師・看護師・助手・門衛など10~12名が交代で常駐)			
<b>■北西辺境州 (パキスタン)</b>			
PLS マスツジ	チトラール北部	約20万人	200名
PLS ドベイル	インダス・コーヒスタン	約40万人	200名
(月間約1週間滞在して定期診療)			

#### その他

移動診療班：8名の編成で、マラリア流行時や偵察診療、緊急支援に出動

●1996年度中に  
寄付をいただいた団体

- アースワーク (医)愛成会 東野産婦人科
- 朝倉記念病院
- うら梅の郷会
- 岡山県精神医学会
- オクタナティブ研究会
- 関西学院 宗教センター
- 熊本YWCA
- 久留米大学 法学部古賀ゼミ
- 古賀高校 緑十字グループ
- 国際ソロプチミスト福岡南
- 国際ソロプチミスト福岡一東
- 徳州会札幌徳州会病院
- 愛心会大隅慶徳病院看護部
- 浅木病院
- アトリエ工彩
- (株)ヴィジュアルフォークロア
- 医療法人愛心会大隅慶徳病院
- 大牟田中央ライオンズクラブ
- オフィスMOVE
- 北九州アジアを考える会
- 熊本ペシャワール会
- 香草舎
- 国際ソロプチミスト北九州一西
- 国際ソロプチミスト日田
- さかえ国際理解と交流の会
- 山水会
- 正福寺
- システム開発(株)
- 老人保健施設 城山荘
- 聖心会本部
- 西南学院中学校母の会
- 西南学院高校
- 西南学院高校後援会母の会
- 西南学院大学
- 西南幼稚園
- 西陵高校
- 長得寺
- 九十九会
- 東郷信愛幼稚園
- 徳州会 野崎病院
- 徳之島徳州会病院
- 長崎北徳州会病院
- (株)鳥漁組
- 商工中金事務集中部交友会
- 志義セミナー小郡校
- 鳥羽調剤薬局
- 隅田保養所 保護者会
- 西南学院
- 西南高校インターアクトクラブ
- 西南学院高等学校2年J組
- 西南女学院幼稚園短期大学
- 西南学院中学
- 西陵高校生徒会
- 全通愛知地区本部
- 東和不動産
- 月の美術館
- 鉄公労 名古屋支部
- 徳州会 JAMSの会
- 徳田病院
- 内船寺婦人部
- 名古屋徳州会病院
- 新冠内科クリニック
- 野崎ネパールの会
- 馬場病院とB.B.ゴルフコンペ
- 都立広尾病院医療相談室
- 福岡女学院中学高校宗教部
- 福岡女学院大学宗教部
- 福岡西口タリークラブ
- 福岡 YWCA
- 星塚敬愛園医療技官一同
- 松塚建設(株)
- 八尾徳州会病院 理学療法室
- 財団法人パキスタン協会
- 梅光女学院大学 宗教部
- 桜原こひつじ幼稚園
- 県立福岡高校
- 福岡ライオンズクラブ
- 福岡女学院幼稚園
- 福岡西口インターアクトクラブ
- 福岡ロータリーアクトクラブ
- ふじヶ丘保育園
- 松ヶ丘病院
- 三森町公民館
- 八代女性市民の会トマト館
- ロープ美容室
- 若久病院
- 大牟田市山町教会
- 木直キリスト教会
- 小倉バプテスト教会
- 福岡中央教会
- 西南学院バプテスト教会
- 日本基督教団 濃屋崎教会
- 東郷教会 教会学校
- 日本聖公会 福岡教会
- 聖ヒンセンオ・ア・パウロ会
- 福岡国際教会
- 福岡聖書研究会
- 福岡ベタニヤ村伝道所
- 別府聖書研究会
- 京都福音教会
- 香住ヶ丘バプテスト教会
- 古賀五葉ヶ丘キリスト教会
- 佐賀めぐみ伝道教会
- 品川バプテスト教会婦人会
- 千葉海浜伝道所
- 天神聖書会
- 鳥栖バプテスト教会
- 平尾バプテスト教会
- 福岡キリスト教女青年会
- 日本基督教団 福岡城南教会
- 福岡中部教会 壮年会
- 福岡南教会
- 日本キリスト教団 幕張教会
- 日本キリスト教団 八幡町教会

●1997年度ペシャワール会会計報告

一般会計

[収入の部]

1 会費・寄附①	42,882,903
2 補助金等	27,967,000
(うち)外務省補助金	7,500,000
国際ボランティア貯金	18,091,000
救援財団等	2,376,000
3 事業収入等	1,089,053
(うち)絵ハガキ販売	246,068
書籍販売	245,298
講演謝礼等	597,687
4 利息雑収入	45,588
5 マラリア基金繰入	3,200,000
年度収入計	75,184,544
前年度繰越	16,990,681
収入計	92,175,225

[支出の部]

1 現地協力費	83,560,928
(うち)1) JAMS 運営費②	59,531,278
2) PLS 運営費③	15,660,414
3) 現地ワーカー費④	5,755,063
4) 渡航費	530,584
5) 通信費	791,990
6) 国内活動費⑤	1,291,599
2 広報費	2,379,836
3 事務局費	2,944,175
年度支出計	88,884,939
次年度繰越	3,290,286
支出計	92,175,225

外務省補助金・国際ボランティア貯金内訳

外務省補助金	
JAMS 運営費 (パキスタン)	7,500,000
国際ボランティア貯金	
JAMS 運営費 (アフガニスタン)	14,078,000
PLS 運営費	4,013,000
合計	18,091,000

特別会計「新病院建設基金」

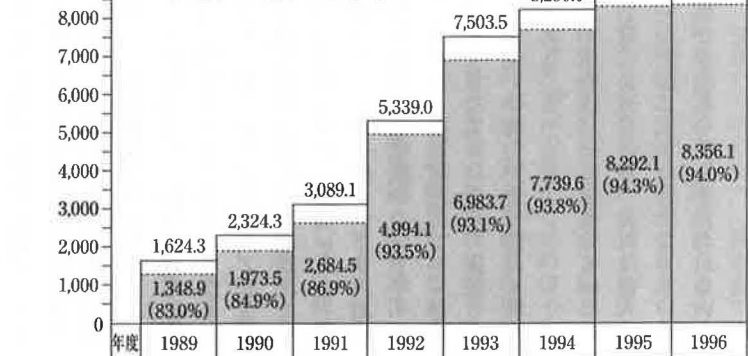
[収入の部]

1 年度寄附金	30,917,538
2 利息	59,982
年度収入計	30,977,520
前年度繰越	3,628,765
収入計	34,606,285

[支出の部]

1 建設資金 (送金分)	10,000,057
2 送金手数料	5,492
年度支出計	10,005,549
次年度繰越	24,600,736

●大きくなる支援の輪  
(支援の実績/支出額)



(個人会費寄 685 1,097 1,322 2,202 2,722 3,096 3,503 3,283件)  
 (団体寄付 55 91 98 114 159 191 145 150件)

'96年度会計報告

- ①個人会員 三三八三件、団体一五〇件
- ②JAMS医薬品、人件費他
- ③PLS医薬品、人件費他
- ④住居費等
- ⑤国内研修費用、講演旅費等

●1996年度事業額 (支出ベース)  
88,890,431円

事務局費 (家賃等)  
2,949,667円  
(3.32%)

広報費 (会報発行)  
2,379,836円  
(2.68%)



## ●戦乱・新病院建設・円の急落——激変する状況のなかで 現地事業の継続と互いの協力を確認

ペシャワール会事務局長 村上 優

### 確かなことは何一つない

九十六年度を振り返ると、この一年の変動に改めて驚くばかりである。事務局には中村医師より現地の報告が定期的にファックスで入る。私達の活動の基盤が——それはアフガニスタン国内のことであれ、パキスタン国内のことであれ、ハンセン病診療をめぐる体制のことであれ、何一つ確かなことのないことに気づかされる。非日常であるはずの戦争や対立の中でも、人々は病を癒すための営みを日常的に行っている。中村医師の報告をみていると静かに熱いものがこみあげてくる。

アフガニスタンではタリバンの攻勢が報じられている。全土を掌握したと報道された三日後には再び戦闘が始まったという。以前とは違った都市難民がペシャワールめざして移動していたが、パキスタン側の拒否でアフガニスタンに留まっていた。そのパキスタンもブットー政権が倒れて、財政破綻が噴出してきている。

JAMSもPLSもこの情勢の波を受けながら、刃の上を歩くように事業は進められている。アフガン国内の内戦は政治対立より、民族対立の様相

を呈しているが、その対立した民族がチームを組んでJAMSを運営している。また活動を始めて二年のPLSのフィールドワークをそのJAMSが支援している。

### パキスタン政府の認可を取得

今回、これまでのハンセン病治療を目的としていたPLSと、アフガン難民からアフガン国内の医療を手がけてきたJAMSをPLSに統合してパキスタン連邦政府の認可を得た。これまで別々に連邦政府や州政府の認可をえていたものを、日本からの支援がダイレクトに反映された体制となった。これから長期間に及ぶであろう支援にあつて安定した基盤の一つとなる。

ハンセン病治療センターとなるPLS新病院建設も、ハンセン病への偏見に根差した地域の排斥から始まったものの、ペシャワール会目前のハンセン病治療の基地をえるもので、これも安定的活動への大きな一歩となる。

### 自発的な支援の広がり

昨年の春以降、新病院建設のために多くの募金

をいただいた。これまでに三五〇〇万円が集まり、目標五〇〇万円も不可能ではない。さらに名古屋サウスライオンズクラブにも大きな支援を組んでいたことになった。中村医師や現地の呼びかけにこれだけ多くの反応があることに感謝している。

またソブチミスト福岡南や福岡東の方々が、支援のためのコンサートを独自に企画して多くの寄付を寄せていただいた。このような支援は、学校や職場や地域の中でも様々な形で自発的におこなわれている。支援の広がり事務局の力を越えて始まっていることに、中村医師らの現地の活動が多く共感を得ていると勇気づけられる。

昨年は、それでも新病院募金の影響で通常の募金が四一〇〇万円と例年より落ち込んだ。加えて急激に進んだ円安や、郵政省ポランティア貯金など政府系補助金の減額があり苦しい財政状況で、年度途中に予算一〇%減を現地にお願した。今年三月に郵政省主催のシンポに招かれてJAMS代表のシャワリ医師とPLS代表のハンフリー氏が来日されたが、その折に財政状況について理解を得た。そこで確認できたことは事業の継続と、今の苦しい時期をお互いの努力で乗り越えて明日につなげることである。

ペシャワール会の活動は、それを支えていただいている多くの会員によっている。会員は個人の善意に依頼しているが故に大きな力となっている。さらにこの輪の広がることを祈らずにおれない。

## ●ペシャワール新病院見聞記

## 実を結びつつある果実

イスラマバード国立外国語学校  
ウルドゥ語科

藤井卓郎

## 「自前の土地に自前の病院を」

イスラマバードでウルドゥ語を勉強し始めて九月ほど。PLSには今まで何度か訪問させていただいていますが、その度に見られる人員組織面の充実には目を見張るものがあります。周辺住民の感情を考慮して病院名からレプロシー(らしい)の語を外し、ペシャワール会(ジャパン)メデイカル・サービス(PMS)と改称、新生PMSとJAMSをPRRS・ペシャワール会(ジャパン)リリーフ・サービスのもとに統合する組織整備、スタッフの責任分掌の明確化、人員把握のため事務室前にスタッフの出退勤の一覧表を掲示、看護スタッフやドクターをJAMSからの転入を含めてさらに強化するなど、今このペシャワール病院でひとつの新しい動きが始まりつつあります。円安下の財政難を乗り越え、らいコントロール計画三十年の計を貫徹するための体制を軌道に乗せるべく、中村先生が尽力されている姿には頭が下が

ります。八時の朝礼から始まる一日の仕事の中で、スタッフの皆さんも規律を以て、よく中村先生の熱意に応えられているように見受けられました。そうした新生PMSの進路に立ちふさがるのは、

病院の立ち退き問題です。政府提供の土地の問題がこじれ、二転三転の末、中村先生とハンフリーさんが出された結論は、自前の土地に自前の病院を、というものでした。財政的困難を伴っても独自の活動拠点を確保して、つまらぬ駆け引きから自由なところで活動に専念する……たぶん中村先生のスタイルなのでしょう。そして入院患者さんの話を聞いてみても、このスタイルこそが、先生が医療の現場で患者さん達の信頼を勝ち得ている理由のひとつだと思えるのです。

## 病院建設、急ピッチで進行中

ということ、PMSの新拠点の建設が、現在のPLSのあるユニバーシティタウンの郊外に来年四月の完成を目指して急ピッチで進められています。今回、六月上旬の訪問で工事現場を見ることができました。現在のPLSから車で五分ほど、カール川疎水に沿って南下したところ、田園風景のまっただ中に工事現場がありました。一八〇〇坪の敷地を囲む煉瓦造りの塀がほぼ完成していました。

新病院の特徴は光熱費節約のため、最下層を半地下にしていることで、時地下部分の掘削がほぼ

終了しようとしているところでした。ペシャワールの夏の酷暑に対して半地下の涼しさは威力を発揮することでしょう。農地の真ん中にあることもあり、浸水を防ぐため、敷地全体を一メートル程高く造成する設計になっています。今までの病院が一般家を借りて、改良して使用していたのに比べ、本格的に病院として計画建設されていることが見て取れます。立ち退き問題を逆手にとって、それを設備面の充実につなげる前向きな解決法です。

## より使いやすい病院に

施工にはUNHCR関係の仕事をしている確かな業者があたっています。まだ塀しか出来ていない状態でしたが、その煉瓦の積み方を見ても、手を抜かぬ仕事ぶりが分かります。また、中村先生やハンフリーさんと現場で打ち合わせをするチーフエンジニアのてきぱきとした対応も印象的でした。中村先生は日夜図面とにらめっこで、より使いやすい病院にするべく設計の手直しをしておられます。ハンフリーさん、藤田さん、スタッフの皆さんの意見を積極的に取り入れられると共に、工事現場にも度々足を運んでおられます。

今回の訪問で私たちの募金、このペシャワールの地で有効に活用されていること、そしてさらに大きな実を結ぼうとしていることを実感することができました。そして来年の春には、完成した新病院で活躍するスタッフの皆さんや、患者さん達の笑顔に再会することができると、今から楽しみです。

\*

親方。らい患者のサンダルのみな  
作ってしまうすご腕の持ち主。家  
ドに残しての単身赴任である。



◀ナキーブ アフガン難民の検査技師。三人  
の子供がいる。とても仕事熱心で、限られた  
設備の中で頑張っていた。病理組織標本の作  
り方を習っていた。



◀ハンフリー・ピーター PLSのマネージ  
ャーで、中村医師の良き理解者であり最大の  
協力者。病院の仕事や法律上の問題を全て任  
されている。最近教会関係の仕事から手を引  
き、PLS一筋でいかれるそうである。

紹介その1

「めた意義深い三週間でした」

週間、医師国家試験後の春休みを利用して2年ぶりにペシャ  
た。滞在中は同じく現地を訪れてきた日本人の方々（聖路加  
大谷大の蓮岡君、札幌医大の佐々木君、カメラマンの吉田さ  
ドに留学中の藤井さん）と一緒に日本人スタッフハウスで寝  
スタッフの夕食の準備や買い物、掃除などの雑用をしながら  
現地人スタッフ達と旧交を温めることができましたし、中村  
手伝いもさせていただきました。本当に有意義な3週間で  
しに現地の活動をよく知っていただく意味も込めて、PLSの  
たいと思います。

【写真・文】 ペシャワール会事務局 永田高志

▶ドクター・サイード アフガン出身で医科大卒。病棟の仕事や手術  
も中村医師より任せられ活躍中である。



ンジャン

JAMSのドライバー。息子ファリッドと  
PLS勤務。盗まれた愛車のパジェロが見  
つてからはとても機嫌が良くなった。



アリッド  
ジャンの息子でワークショップのム  
ザ親方の下で働いている。



▼ネコ

サンダルワークショップのグラムハ  
イダーが捨ててきた猫。PLSに住み  
着いている。朝礼や回診に必ず現れ、  
スタッフに付いてくる。



▼ムルタザ  
靴ワークショップの  
らず、仮義足まで  
族をイスラマバー



◀サダカット もとミッション病棟の看護士。トレ  
ニーや若い医療スタッフのまとめ役。大柄でゴツイ顔に  
似合わず心優しく茶目っ気がある。



PLS スタッフ

「旧交を温

3月24日から3  
ワールを訪れまし  
看護大の岡崎さん、  
ん、イスラマバー  
泊まりました。  
の毎日でしたが、  
先生や藤田さんの  
た。今回はみなさ  
スタッフを紹介し

▲ファルザナ (左端) ハンフリーさんの助手。パ  
ソコンで書類をつくったりコピーをとったりと忙し  
そうにしていた。長身の美人である。(右端は藤田  
看護婦)



▶(左から)  
モハド・アスラム PLSの庭師。  
シャムーン PLSの洗濯係。  
グラム・ジャン 雑用係。いつも無口で黙々と仕事  
をする。  
シャム・ウル・ハグ PLSとスタッフハウスの庭  
師。ハンフリーさんの気遣いでPLSにはたくさん  
の花や樹が植わっており、彼の手入れのおかげでい  
つも綺麗な花を咲かせている。  
アブドウル・ハジ 病院の雑用係で元アフガン難民。



▶カ  
もと共  
つつか

▲アブドーラ  
もとミッション病院の患者で、現在は PLS  
のトレニーの一員。最近結婚したばかり  
で幸せな彼だが高血圧の持病がある。

◀グラムハイダー  
靴ワークショップのスタッフで元患者。治療  
して良くなっていたが、最近症状が悪化して  
手術を受けていた。



▲フ  
カン  
ルタ

●事務局だより

\*アフガン情勢が流動的で緊迫しています。一見戦国や幕末の合戦の時代に立ち会っているような錯覚に陥りそうですが、背景には国際石油資本の思惑や周辺国の利害、武器輸出の暗躍と極めて現代的で生臭い国際政治(パワーゲーム)の影が張り付いています。

JAMSのスタッフには、タリバーンを構成するパシトゥン族もバンジシール渓谷に立てこもって抗戦するタジク族もいます。アフガン人とパキスタン人の民族感情も良いとはいえません。JANSとPLSをとりまく諸条件は私たちの力や意志をはるかに超えて動いています。しかし、だからこそ、愚直に希望を棄てず、政治に翻弄されつづける人々のための医療に専念すべきだと思えます。

\*新病院建設は、紆余曲折がありながら二千坪の土地を取得し工事は着々と進んでおります。現地では、日本の尺度ではとても計れないことが度々起ります。時には苦笑しつつ尺度の方を修正したり、ハンドルの「あそび」を日本のスタンダードよりはゆるめにすることも必要のようです。

開院式は来年四月十日を厳守することです(インシヤラー!)。来年の開院式に際しては、開

ダラエ・ヌールへの道

—アフガン難民とともに

中村哲 四六判上製三二六頁 本体二〇〇〇円  
ひとりの日本人医師が、現地との軋轢、日本人ボランティアの挫折、自らの内面の検証等、血の噴き出す苦闘を通して、ニッポンとは何か、「国際化」とは何か、を根底的に問い直す渾身のメッセージ

石風社

福岡市中央区大手門一八八  
電話 〇九二(七二四) 四八三八

院式参加を含む小さなステディーターを計画しています。詳細は改めてお知らせします。  
\*現地報告会をご計画の方はお知らせ下さい。

●ペシャワール会ハンセン病院建設基金

郵便振替 〇一七三〇一九一三二四二二

◎村から

月

\*中村先生は五月二十五日、関西福中・福高同窓会に講演者として招待されました。この会は中村先生と同窓で関西在住の方々によって結成されている会です。当日参加の百三十名余りの方々は大変熱心に先生のお話を傾けておられました。講演後の親睦会では口々に「涙が出るうごとありました」「おすごでしようが頑張ってください」「中村さんは同窓生の誇りやね」と感動の言葉と支援を送って下さいました。もう何十年も関西方面で暮らしていらつしやる方も多く、さすがに関西訛りの博多弁でしたが博多っ子の心意気と心情に変わりはなく、随員の一人として胸を熱くした一日でした。関西福中・福高同窓会の皆様ありがとうございました。(N)

ペシャワールにて [増補版]

中村哲 四六判上製二六〇頁 本体二〇〇〇円

石風社

福岡市中央区大手門一八八  
電話 〇九二(七二四) 四八三八

アフガニスタンの診療所から

中村哲 B6判並製二〇〇頁 本体一〇六八円

筑摩書房

東京都台東区蔵前二一六  
電話 〇三(五六八七) 二二七〇

会 則

- ① 本会の名称をペシャワール会とする。
- ② 本会は、中村哲医師のパキスタン北西辺境州ならびにアフガニスタンでの医療活動を支援し、必要な情宣・募金活動とともにボランティア・ワーカーの派遣を行うことを目的とする。
- ③ 本会は、思想・信条にとらわれず、「支えあい」の精神で一致して会を運営する。
- ④ 会員は一口年額三、〇〇〇円以上、学生会員一口一、〇〇〇円以上、特別会員一口一〇、〇〇〇円以上の年会費を納入する。
- ⑤ 会員はそれぞれ可能な範囲で、自ら創意工夫して自由なやり方で支援活動を行う。
- ⑥ 本会は会誌の発行を、会員は会の拡大に努める。
- ⑦ 本会は総会に於て若干名の運営委員を選任し会の運営を行う。
- ⑧ 毎年一回総会を開き、会計報告および会の運営について審議する。
- ⑨ 本会の事務局をFARA HOUSE  
(千八一〇 福岡市中央区大名一丁目一〇  
一五 上村第二ビル三〇七号 ☎七三二二  
三七二) 内におく。